

『ぼく、持ってるよ』 教会の7つの本質③賜物分与

(ヨハネ6章1～14) 2022.1.30.

<はじめに>

「教会の7つの本質」シリーズ第3回目「賜物分与」(Empowering)

聖書の中で有名なストーリー「5つのパンと2匹の魚の奇跡」or「5000人の給食」
4つの福音書全てに記されている唯一の奇跡

(参照マタイ 14:15～20、マルコ 6:30～44、ルカ 9:10～17)

まず最初に、4福音書の記事から状況の背景も含めて全体像を見ていきましょう。

I 3人の人物

①ピリポ(5～7)

12弟子のピリポ。

理由6節「ピリポを試すため」、彼はこの地域出身として状況を把握していた。

現在の教会に置き換えると、「常識ある一般クリスチャン代表」?

②アンデレ(8～)

アンデレは、教会に置き換えると「信徒リーダー」「役員」

少年の持っていた「5つのパンと2匹の魚」をイエス様のところに持って行った。

大切な役割

③少年(9)

たまたまいた子供?

5つのパンと2匹の魚、自分の持っている僅かなものを差し出した。

II イエス様の奇跡の目的(6:5～)

①群衆たちのため

群衆の現状と必要を知っておられ、憐れまれた。

十字架が近づいている。

ご自分がメシアであり「いのちのパン」であることを示す

②弟子たちのため

まもなくご自分が十字架にかかり弟子たちがご自身の働きを継承する。

必要不可欠な信仰と祈りの模範を残された。

③わたしたちのため(3)

キリストの弟子であるわたしたちにも必要

この奇跡から、わたしたちに与えられている賜物について

III 私たちのすること(6:25～32)

①必要を認識する 現状よりも必要優先

②常識的な考え、方法では主の奇跡を体験できない。

③持っているもの「賜物」を自覚し差し出す。イエス様に従い手伝う

<おわりに>

イエス様は私たちに、ご自分の働きを手伝ってほしい思っておられる。

賜物は神さまの働きのために与えられ委ねられている。

少年のように「ぼく持ってるよ!」

結果を見がちだが、イエス様はプロセスを大事にされている。

少年が差し出し、弟子たちが配ったことが大事 私たちも! なぜなら、

「イエスはご自分が何をしようとしておられるか知っておられる。決めておられるから。」

(M.M.M)